『待望の告白』

紫　まひろ

【登場人物】

晴斗(はると)・・・26歳。明るく元気があるが、少し抜けているところもあり、隠し事が下手でわかりやすい。
学生時代からずっと邑奈が好きで、彼女を追いかけて同じ会社に来た。
お酒が弱く泣き上戸。酔うとふにゃふにゃになり、ネガティブ思考が強くなることに加え、邑奈に対して『先輩』と学生時代の呼び方に戻る。
(主に恋愛において)意気地がないことが悩み。

邑奈(ゆうな)・・・28歳。仕事ができる優秀な人材で、面倒見がよく、接しやすい人柄から人に好かれやすい。
学生時代から彼のことを可愛いと思っており、好かれているのにも気づいていた。
自分から告白すればすぐなことはわかっていたけれど、あわあわしている彼を見ているのが楽しくて、つい気づいていないふりをしていた。
告白されることはあれど、彼のためにずっと彼氏の座を開けて待っている。

○とある居酒屋（夜）

ＢＧ：居酒屋の雑音や人々の声（ＦＩ）

晴斗　「邑奈さんっ！　今日はお誘いいただき、ありがとうございますっ！」

邑奈　「いいえー。それじゃあ、今日もお疲れ～！」

晴斗　「お疲れさまです！」

邑奈　「かんぱーい！（晴斗と合わせて）」

晴斗　「かんぱーい！（邑奈と合わせて）」

ＳＥ：グラスがぶつかる

邑奈　「（呑む）……ぷはぁー！　は～！　生き返る～！」

晴斗　「やっぱ仕事終わりのビールは美味いですね～！」

邑奈　「ほんと～！　（呑む）……ぷはっ。ふぅ……でもよかった～」

晴斗　「え？」

邑奈　「ほら、私が呑みに誘った時、
残業コースで遅くなるかもしれないから～って悩んでたじゃん？」

晴斗　「あー、そうでしたね」

邑奈　「私、もう朝から晴斗と呑み行く気満々だったからさ～、
残業コースにならなくてほんとよかったな～って」

晴斗　「そうだったんですか？　だからあんなに行きたがってたんですね」

邑奈　「そうそう。でも、よく無事に終わらせられたよね～」

邑奈　「もしかして……私のために頑張ったとか～？
そんなに私と呑みに行きたかったの～？」

晴斗　「え?!　いや、それはぁ……！　えっと……」

邑奈　「ふふっ、な～んてね～！　冗談冗談！」

晴斗　「ちょ、ちょっともう～！　やめてくださいよ～」

邑奈　「あはは！　でも、ごめんね、忙しいのに無理して誘っちゃって……。
上司からの誘いって断りにくかったりするし、
晴斗も、もしかしたら無理して頷いてくれたんじゃないかなって思って……
迷惑じゃ、なかった……？」

晴斗　「っいやいや！　迷惑なんて！　あれくらい余裕で片付けられましたし！
全然問題ないです！」

邑奈　「え〜？　ほんと〜？　結構本気で悩んでたように見えたけど〜？
　ちょっとカッコつけてない？」

晴斗　「ほんとですって！　全ッ然余裕でしたから！」

邑奈　「あははっ。まぁでも、すごいよ。頑張ったね。えらいえらい」

晴斗　「（嬉しそうに照れる）えへへ……ありがとうございます……」

邑奈　「お腹すいたでしょ？　ほら、いっぱい食べな？
　頼みたいのあったら頼んでいいし」

晴斗　「（笑って）、ありがとうございます。
　……（食べる）……んー……唐揚げうまっ……」

邑奈　「（呑む）……ぷはぁ〜……そういえば聞いた？」

晴斗　「（食べながら）ん？　なにがです？」

邑奈　「高峰（たかみね）と後藤（ごとう）、付き合ったんだって」

晴斗　「えっ!?　（飲み込む）ッ！　そうなんですか?!」

邑奈　「うん、らしいよ？」

晴斗　「え〜〜……そうだったんだ、初めて知った……」

邑奈　「前々から仲良かったからね～。もしかしてとは思ってたけど……」

晴斗　「そうなんですね……。
でも確かに、あの二人って並んでるとお似合いですもんね。
（小さく笑う）、はぁ、いいなぁ～……（呟き）。（呑む）……」

邑奈　「……ねぇ、そういえばさ。晴斗って好きな人いるの？」

晴斗　「（噴き出す）ブッ!!!!!!　（咳き込む）ゴホッ、ゴホゴホッ!!!!!!」

邑奈　「うぉぉ大丈夫？」

晴斗　「ごほっ、だッ、大丈夫です……ッ！　（咳き込む）ゴホゴホッ！
ちょ、と、というか、何ですか急に!?」

邑奈　「いや、私たちって学生の頃からなんだかんだ付き合い長いけど、
そういう話全然したことないでしょ？　だからちょっと気になってさ～」

晴斗　「っ、いや、確かにそうですけど……だって、その……
いや、でも、恥ずかしいじゃないですか、そういうの……」

邑奈　「（笑いながら）恥ずかしいって、もう学生じゃないんだから」

晴斗　「いや、でも……」

邑奈　「で？　どうなの？　好きな人！」

晴斗　「言いませんよ！」

邑奈　「え～！　いいじゃん言っちゃいなよ～！」

晴斗　「言いませんって！　というか、なんでそんなに知りたいんですか！」

邑奈　「え？　それは～……ねぇ？」

晴斗　「なんですかそれ！　言いませんって！」

邑奈　「え～！　言ってよ～！」

晴斗　「いやそんなことより！　もっと何か頼みましょ！　あぁほら！
邑奈さんが好きなやつありますよ！」（ＦＡ）

○とある居酒屋・数十分後（夜）

ＢＧ：居酒屋の雑音や人々の声（ＦＩ）

晴斗　「（呑む）……ぷはぁ……！　邑奈せんぱ～い！
実はおれぇ、好きな人がいるんですよ～」

邑奈　「（笑いながら）え、好きな人のこと教えてくれるの？
てかもうべろべろじゃん。相変わらずお酒弱いね」

晴斗　「その人はぁ～、優しくて～、綺麗で～」

邑奈　「（笑いながら）聞いてないし」

晴斗　「面倒見が良くて～、すご～く素敵な人なんですよぉ～」

邑奈　「ふ～ん、そうなんだ～」

晴斗　「仕事ができて～かっこよくて～、おれずっとその人のこと大好きなんです～」

邑奈　「ん～そうみたいだね～」

晴斗　「……でも……すごく素敵だから、その人色んな人に好かれてて……
男にはモテるし、学生時代からめちゃくちゃ告白されてて……」

邑奈　「（心辺りがある感じで）あ～……」

晴斗　「おれも、めげずに何度も告白しようとしたんです……
でもおれ、度胸なくて……いつまで経っても告白できなくて……」

邑奈　「うんうん、そっか～……」

晴斗　「あっという間に昇進までしちゃって……
やっぱりおれじゃ釣り合わないのかなぁって……
何度か諦めようと思ったこともあったんです……」

邑奈　「えっ。あぁ～……そうだったんだ……（呟き）」

晴斗　「……だけど……だけどッ……！
（呑む）……ッ!!（グラスを勢いよく机に置く）」

SE：グラスを勢いよく机に置く

晴斗　「おれのことすごく気にかけてくれるし、呑みにも誘ってくれるんですよ！
そんなことされたら、諦められるわけないじゃないですかぁ!!!!!」

邑奈　「……ふ〜ん……じゃあ……もう私は誘わない方がいいかなぁ……」

晴斗　「……へっ？」

邑奈　「だって〜、私と二人で呑みに行ってることが好きな人にバレたら、
上司とはいえ、勘違いさせちゃうかもしれないじゃん？
好きな人に勘違いされて、誘われなくなったら、晴斗も嫌でしょ？」

晴斗　「いや……それは……えっと……」

邑奈　「だから、もう一緒に呑みに行くのはやめよっかぁ。
晴斗も上司の私なんかと呑みに行くより、
好きな人と行った方がいいもんね〜。あ〜あ〜、すっっごく残念だけど、
まぁしょうがないよね〜」

晴斗　「そ、れはぁ……いや、でもぉ……」

邑奈　「ん〜？　どうしたの〜？」

晴斗　「ちが、くて……だからぁっ……（泣き始める）」

邑奈　「あら」

晴斗　「（泣きながら）ちがうっ……！　ちがうんです～！
……だからっ、おれはぁ……！　先輩とっ……！　先輩がぁ……！
先輩なんです～～！」

邑奈　「（ちょっと笑いながら）お～お～お～、どうしたのどうしたの」

晴斗　「（泣きながら）……ずっと、がく、学生の頃から……先輩のこと、ずっと……
だから、会社まで追いかけて……ずっと……ずっとぉ……!!!!!!
（大泣き）……!!!!!!」

邑奈　「あ～あ～あ～大泣きだねぇ」

晴斗　「呑み、行くの、やめたくなっ……先輩と一緒がいっ……ごめんなさっ……
おれはっ、先輩と一緒にっ……！　う、うぅぅぅ～……！」

邑奈　「すごい。こんなに泣いてるのは初めて見たかも。大丈夫？　晴斗」

晴斗　「（大泣き）」

邑奈　「はぁ……全く……晴斗はほんとに……」

邑奈、晴斗の頭を撫でる。

晴斗　「ぐすっ……へぇ……？」

邑奈　「（小さく笑って）、かぁわいいねぇ……」

晴斗　「……へ……？」

邑奈　「ごめんねぇ～。晴斗の気持ち、気づいてはいたんだけど、
頑張ってるのが可愛くて、つい知らないフリしちゃったんだよね～」

晴斗　「ぇ……？　なに……どういう……んん……？」

邑奈　「学生の頃からずーーっと待ってたんだよ？
だからいくら告白されてもずーーっと断り続けてきたし、
彼氏も作らなかった。なのに晴斗、全ッ然告白してきてくれないから……
もうそろそろ、待ちくたびれちゃったなぁ……」

晴斗　「え……んんっ……?!　へっ……?!　いや、えっ、えぇ……?!」

邑奈、晴斗に顔を近づける。

邑奈　「（囁くように）……ねぇ……ここまでお膳立てしたのに、
まだ私を焦らすつもり……？」

晴斗　「ぁ……あ、あっ……う……す……すき……です……」

邑奈　「（小さく笑って）……はい、よく言えました♡」